

あなた方が私たちの友 兄弟姉妹である



兄弟姉妹の皆さま

2024年を迎えました。新しい年が良き1年となりますようにお祈りいたします。

カトリックの典礼暦では、1月1日が神の母聖マリアの祭日です。聖母の模範にならい、そして聖母マリアのお祈りに支えられて過ごす1年となりますように祈り、新年が始まります。

ご存じのように、2024年元旦16時10分、日本では人々が新年の恵みを祝っている時に大地震に見舞われ、石川県を中心に壊滅的な被害を受けました。翌2日には羽田空港にて飛行機の衝突事故と火事が起り、被害者も出ました。世界各地では、平和に新年を祝うことが出来た地域もありましたが、大きな苦難の中で新年を祝うことさえできない地域もありました。新年の始まりでさえかつてないほどの苦難に見舞われて何か落ち着かない気持ちの方もいらっしゃることでしょう。能登半島だけでなく石川県全体、近隣の県の方々の苦しみは、まだまだ続いています。その方々に愛される故郷は地震で復興できないと思われるほど大きな被害を受けてしまいました。亡くなられた方々も少なくはありません。避難されている方々も不安の中、1日1日を過ごしています。子供たちも、学校の友達にも会えず、不安・恐れ・落ち着かない状況の中で生きています。

生き残った方々には健康に安全に、生活を立て直して生き続けられることを祈り、マリア様に神様への取次ぎを乞い願います。帰天された方々には永遠の安息の地に神様が迎えてくださいますように心からお祈り申し上げます。

カトリック信者として、私たちは常に正しい信仰の姿勢で周囲の出来事に対応しなければなりません。私たちが経験する出来事は、私たちの信仰を試すものとも言えるでしょうか。実際に霊的な視点から見れば、これらの出来事によって私たちの信仰を成熟させることが出来るのではないかと思います。悲しみや心身の荒廃を直に経験した人々は私たちの兄弟姉妹です。彼らの痛みや悲しみは私たちの痛みや悲しみであり、彼らの希望や夢は私たちの希望や夢でもあります。ですから、彼らを放っておいてはいけません。私たち一人ひとりが個人的な祈りの中でまたミサの中で皆で心を合わせて、彼らの痛み、悲しみ、苦しさ、希望を受け取って祈りましょう。私たちは今、兄弟姉妹の痛みや悲しみを想って祈ったり見舞ったりしていると思います。それらの痛みや悲しみは一時のものでなく、長く続くことを心に留め、兄弟姉妹の心に寄り添っていきたいと思います。

願わくは、聖母マリアをはじめ、その月に祝う様々な聖人の祈りと共に、慈善と愛の行いにより彼らを支えましょう。

上野毛教会から祝福と祈りをお贈りいたします。神様の祝福が皆様の上に豊かに注がれますように。
アーメン。

2024年1月2日

カトリック上野毛教会 主任司祭
ペトルス・ウィリー・ソバ・ドイ O.C.D.